

第75回 獣医学セミナー

産業動物疾病における画像診断支援
～前期高齢者のイチ臨床獣医師からのメッセージ～

田浦 保穂 先生
(獣医外科学)

2019年 4月24日 (水) 16:00-17:00

研究科棟4階 大講義室

牛・馬・豚・鶏など産業動物獣医学の最終目的は、安定した安心・安全な臨床と食品の供給と考える。それには臨床獣医学と家畜衛生学・公衆衛生学・食品科学などの病態・予防獣医学と連携すべきであり、従来の一般法に加えて、飼養管理衛生や生命倫理およびHACCP等の食品安全管理を強く意識した教育研究が求められる。また高度な教育研究には設備等のハード面とともに、貴重な臨床症例や病理検体等の収集および参加型臨床実習等におけるマンパワーが必要不可欠である。私達はこれまで、動物の飼養管理衛生や動物福祉に十分配慮された高度な産業動物臨床や病理および食品科学分野の教育研究推進を試み、従来の動物医療センターだけでは困難であった産業動物の集団健診やフィールドでの群単位の調査研究、さらに家畜衛生・病理・公衆衛生食品衛生など、分野を越えた教育研究連携をしており、格段の教育研究効果が得られている。

時はAIの時代に突入した。現在AIと言え人工知能 (Artificial Intelligence) が一般的で、獣医学領域で一般的な人工授精 (Artificial Insemination) は人医学ではAIHやAIDと略され、最近では死亡時または死後画像診断 (Autopsy imaging; Ai) というAIも出てきた。小動物獣医臨床においてはX線CT (CT) や磁気共鳴画像 (MRI) などを使用して多くの研究が報告されているが、家畜伝染病予防法等により確定診断を余儀なくされる産業動物獣医療においては、病理解剖による診断が主であり、生前画像とAi診断を一体化した研究は未だ少ない。私達は世界に先駆けてウシの頭部疾患のMRI検査等を実施しその有用性や画像診断支援を行ってきた。これらは産業動物疾病の臨床的画像診断支援だけでなく病理診断支援ツールとして期待される。山口大学共同獣医学部は鹿児島大学同学部と教育連携しながら、獣医学教育の国際水準の一つである欧州基準 (EAEVE)を2019年6月にアジアで最初にクリアできるよう準備中である。これまで脳脊髄疾患疑似患牛に対してMRIやCTなど画像診断を積極的に臨床応用してきたが、臨床と病理学の教育連携が指摘された。産業動物の臨床と病理学の教育連携の是正・充実は緊急課題であり、画像診断をキーワードとして連携することにより、臨床獣医学研究の最新手法の選択肢が拡大し、臨床獣医学領域研究の飛躍的な進展、臨床獣医学と病態・予防獣医学との研究連携、および食品安全という新たな研究分野の構築や、研究の高度化に繋がると期待する。

「人類のたゆまない歩み 恐ろしき・・・電子顕微鏡やGFP等による細胞の画像診断から、電波望遠鏡等によるビッグバンの画像診断など、超ミクロ～超マクロまでも診られるようになったのだから・・・」

★飲み物・おやつを用意します (回青橙の会後援)。

教員・学生の積極的な参加をお願いします! ★

連絡先: 柳田哲矢 (5914) 島田 緑 (5909)

